

## 地域での貢献目指し

### 地域から

ことし6月に設立された「県認知症ケア専門士会」（遠藤慶子会長）の発足記念第1回セミナーが8月21日、認知症ケア専門士、市民ら約250人が参加し川崎市内で開かれた。遠藤会長が設立の趣旨を説明し「認知症の人を支援するため、地域で役割を果たしていきたい」と決意を述べた。

認知症ケア専門士は、認知症ケアに対する優れた学識と高度の技能、および倫理観を備えた専門技術士を養成しようと、日本認知症ケア学会（今井幸充理事長）が2005年度に設けた民間資格。これまで11回の試験を行い、介護職だけでなく、医師、看護師、社会

福祉士ら多彩な職種の約4万3千人が資格を取得した。県内の有資格者は1756人。09年度には上級資格の認知症ケア上級専門士制度も創設されている。

県認知症ケア専門士会は、県内の専門士が協力し、専門士の養成、地域での認知症ケアの知識・技術の向上、保健福祉への貢献、認知

症であつても安心して暮らしていけるまちづくりの周知などに取り組みようと設立された。遠藤会長は「市町村、地域レベルから積極的にまちづくりに関わり、発言していきたい」と話す。

今後は、10月2日に横浜市港南区で専門士向け第1回学習会を開催するのをはじめ、学習会や講演会を開催。フェイスブックなどを通じ情報発信も行っていく。

セミナーでは、在宅介護者の会と共催で講演会を開催。若年性認知症の当事者で、日本認知症ワーキンググループ共同代表の佐藤雅彦さん(62)が「本人とよく話をし、本人の本音に耳を傾けてほしい。何ごととも本人抜きに進めないでほしい」と、社会が認知症への認識を改めるよう訴えた。

(熊谷 和夫)



役員とともに県認知症ケア専門士会発足の決意を語る遠藤慶子会長(左から3人目)

＝川崎市高津区の高津市民館